



東不院

私たちの真宗

宗派 真宗大谷派
本山 真宗本廟（東本願寺）
宗祖 親鸞聖人
本尊 阿弥陀如来
教え 本願を信じ念仏をもうさば仏になる

函館別院由来

函館別院の草創である泉沢の阿弥陀堂が箱館（函館）に移転し、後に御坊として本山の掛所になる理由に、当地が江戸時代中期より地域の拠点であったことが上げられます。

すなわち、この頃より日本海航路の北前船をはじめとする北陸方面との物流経済が活発になり、それにもなつて真宗門徒が急増したことによるといわれます。

江戸時代より数度の大火により、当院は三度類焼しましたが、その度ごとに、より大きな本堂が建立されてきました。真宗門徒の篤き信仰をうかがわせる思いがいたします。

現本堂は大正4（1915）年に日本で最初の耐火建築である本堂式鉄筋コンクリート建造物で、平成19（2007）年に国の重要文化財に指定されました。

祖徳憶念

釈尊在世当時、またその影響の残っている時代は、釈尊のようなさとりを得ようと思ひ、教えのとおり実践すれば人はさとりを得ることができました。人は苦悩から解放される道筋を、釈尊という存在と教えを通して知ることができたのです。人間に生まれてきたことの意味と生きる方向がはっきりと示されていた時代ともいえましょう。この時代を仏教では正法の時代といひます。

仏教はさらに末法ということをしていひます。釈尊が入滅され、時が経つにつれて、釈尊の教えとその実践によってさとりを得ることができなくなり、教えを求める人がいなくなる、その世を末法の世という。末法とは、釈尊の教えという、苦悩から解放される道が失われた時代のことといひましょう。聖徳太子のころには日本でも末法の世に入ったと親鸞聖人は考えておられたようですが、私たちは今、末法という時代の中において、歩むべき道も至るべき所もわからないまま苦しんでいるといひられるのかもしれない。

親鸞聖人は法然上人との出会いによって、この末法の世で苦悩する凡夫の一人として自己を見出し、その己のすくわれる道を教えられました。そしてそのことは、末法の世に生きるあらゆる人々のすくわれる道を明確にすることでもありました。それが「本願を信じ、念仏をもうさば仏になる」「親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべしと、よき人のおおせをかぶりて、信ずるほかに別の子細なきなり」（ともに『歎異抄』）のことばに言ひあらわされています。

前輪番 島 潤二 記

身がわりの御真影ごしんね

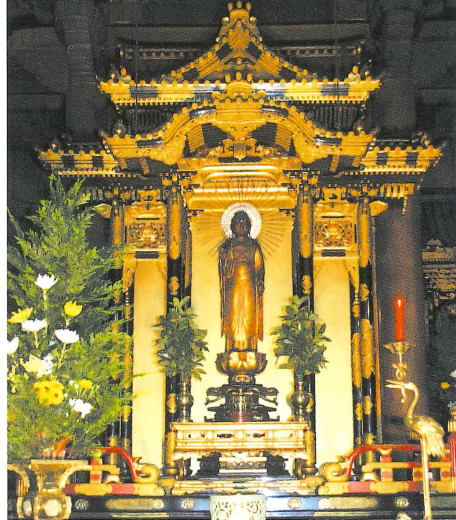


京都より遠隔であった北海道の御門徒も御真影に手を合わすことができるようにと、本山御影堂の聖人像が模刻され安置されています。

阿弥陀如来像

恵心僧都作えしんそうず

船見支院



像の衣線は浅く、全体的には丸みをおびた一本彫で、平安後期の特色を良く表現している。



欄間 天人彫の名手・彫長作



本堂大屋根を支える木組は、当時、最高技術を誇った米国東海岸・スチール社に特注した鋼材を、大陸横断鉄道でサンフランシスコまで運び、そこから海路で横浜そして函館と運びこまれたものを用いて組み上げられています。（非公開）



並立奉安

内陣には御本尊（向って右の立像）と宗祖聖人御真影が並立安置されている。この様式の真宗寺院としては東京浅草・坂東報恩寺と函館別院が有名。

宗教法人 真宗大谷派函館別院

☎040-0054 函館市元町16番15号

☎(0138)22-0134 FAX 22-3976

船見支院(墓所)

函館市船見町18番20号

☎23-1035 FAX 23-7590

千歳支院

函館市千歳町7番2号

☎22-0345 FAX 22-6917

海岸支院

函館市海岸町7番2号

☎23-2241 FAX 23-2429

本町支院・別院教化センター

函館市本町30番32号

☎52-0237 FAX 52-0335

東山支院

函館市東山1丁目1番7号

☎31-5010 FAX 31-5322

研修センター

函館市元町21番16号

☎・FAX 22-3370

学校法人 真宗大谷学園

本部事務局

☎041-0843 函館市花園町17番17号

☎(0138)54-2640 FAX 54-2639

花園大谷幼稚園

函館市花園町17番17号

☎54-2640 FAX 54-2639

函館大谷幼稚園

函館市千代台町10番10号

☎51-1674 FAX 51-0733

西 曆	和 曆	主 な 事 項
1890	明治23	帝室技芸員九代伊藤平左衛門による本堂が再建され、北海道寺務出張所が置かれる。
1899	明治32	海岸町説教所を建立する。
1904	明治37	大谷支院（現在の船見支院）を建立する。（寺地2500坪）
1907	明治40	函館大火により函館別院類焼する。（38,977戸以上焼失）
1915	大正 4	度重なる大火ごとに本堂が焼失することを憂いた当時の総代・三代渡邊熊四郎の案が取り入れられ、 日本最初の鉄筋コンクリートによる本堂（現本堂） が再建される。（寺地2000坪）設計、九代伊藤平左衛門。施工、木田保造、十代伊藤平左衛門。
1921	大正10	千代台説教所を建立する。
1926	大正15	大谷支院（船見支院）の本堂を再建する。昭和2年に鐘楼門を建立する。
1930	昭和 5	函館大谷幼稚園を開園する。
1934	昭和 9	函館大火により松風町説教所が類焼。その地に松風保育園（後に花園町に移転、現在の花園大谷幼稚園）を開園し被災者の後方支援をする。
1937	昭和12	焼失した松風町説教所を代替地の千歳町に移転し、千歳町説教所が建立される。
1944	昭和19	千代台保育園（現在の第三大谷幼稚園）を開園する。
1955	昭和30	千代台説教所を本町に移転し、本町教会と改称する。他の説教所も教会に改称する。
1963	昭和38	老朽化した海岸町教会の本堂を再建する。
1968	昭和43	門徒会館落成する（現在の別院会館）。宗祖親鸞聖人700回御遠忌厳修する。
1976	昭和51	納骨堂紫雲殿を建立する。（鉄筋2階建）
1982	昭和57	4教会を支院に改称する。
1988	昭和63	本堂を十一代伊藤平左衛門により改修。
1991	平成 3	祖像安置100年、本堂修復、創立320年、別院公称130年の法要厳修する。
1992	平成 4	東山支院が建立され、5支院となる。
2002	平成14	本町支院・別院教化センターを再建する。
2007	平成19	本堂、四脚向唐門（正門）、鐘楼堂が、わが国における最初の鉄筋コンクリート造寺院建造物として 国の重要文化財 に指定される。（函館市で建造物として5番目）

真宗大谷派函館別院 沿革

西 曆	和 曆	主 な 事 項
1499	明応 8	蓮如上人門弟の弘賢、上の国（安東氏支配）に浄願寺（夷浄願寺）を建立する。
1514	永正11	「コシャマインの戦い」により浄願寺は、蝦夷地より秋田に撤退する。（年代に諸説あり）
1533	天文 2	蛸崎季廣は福嶋郷知内より僧真徳を招き、大館（現在の松前）に専念寺を建立する。
1602	慶長 7	教如上人は徳川家康より寺地を寄進され、京都に東本願寺を建立する。（大谷派東本願寺の誕生） 松前藩は、一宗一派政策をとり領内は東本願寺のみを許可する。
1668	寛文 8	専念寺6世浄玄は木古内に道場を建立する。一時廃絶の後、1690年（元禄3年）に7世瑞玄は泉沢に阿弥陀堂を再建する。
1710	宝永 7	阿弥陀堂を泉沢より箱館古壘（河野館跡、現在の旧市立函館病院跡）に移転、1747年（延享4年）の松前藩亀田番所設置につき、「西空閑の地」現在の市立弥生小学校地東側に再移転する。
1759	宝暦 9	阿弥陀堂を専念寺掛所浄玄寺と公称する。
1829	文政12	大火により浄玄寺類焼する。
1838	天保 9	蝦夷地随一の本堂（ペリーの『日本遠征記』によると高さ60フィート）が再建される。
1857	安政 4	E・E・ライスは浄玄寺の茶所をアメリカ領事館として使用する。翌年、医師G・M・ベーツは浄玄寺で町民の診察をはじめる。
1858	安政 5	本山より留守居が派遣され、一向宗東派本願寺箱館御坊浄玄寺と改称する。
1869	明治 2	戊辰（五稜郭）戦争で浄玄寺は仙台藩、徳川脱藩家臣団の本陣となる。終戦後、新政府軍は仮病院とする。
1872	明治 5	浄玄寺境内に羅卒本堂（現在の函館中央署）が建てられる。
1876	明治 9	本山より留守居の名称を改め輪番とし、東本願寺函館管刹を函館別院と改称される。
1879	明治12	大火により函館別院類焼、翌年春、焼け跡に仮堂を建てるも火防の道路改正の為、元町の現在地へ移転する。墓所は現在の船見支院境内地へ移設する。 同年、松風町説教所を建立する。
1888	明治21	六和女学校（現・函館大谷学園）を開設。
1889	明治22	函館別院仮堂に本山御影堂の宗祖親鸞聖人御真影の模刻（厳如上人御直刻）、別名「御身代わりの祖像」を安置する。
//	//	初代渡邊熊四郎の資金援助を得て、同氏所有地（東川町）に無月謝の恵以学校を創置。